

言葉遣いを考える活動を通して、他を思いやる生徒を育てる取組

ねがい

〈目的〉

町教育開発研究委員会を設置し、幼・小・中で実践をつなげるため、各幼小中学校で発達段階に合わせて、優しい言葉・他を傷つける言葉について考える活動を設定し、『言葉遣いに気をつけて他を思う言動ができる児童生徒』を育てます。

〈内容〉

● 言葉遣いについて考える活動

- 小学校では、人権学習において「ふわふわ言葉」「とげとげ言葉」について考えました。また、日常活動における言葉遣いを振り返る機会をもち、「ふわふわ言葉」を増やしました。集会では「ふわふわ言葉」を用いたビンゴゲームや、心を温かくする言葉集めを全校縦割りグループで行うなどしました。



【ふわふわ言葉の木】



【ビンゴゲーム】

- 中学校では、人権劇に向けて事前学習をする中、日常での自分の言動について振り返り、よりよい人間関係づくりや集団づくりのためにどのような言動をとればよいかをロールプレイを通して考えました。

1年生は、相手を傷つけずに自分の気持ちを伝えることについて、2・3年生は、相手に喜んでもらえる優しい言葉と相手を傷つけてしまう言葉について考えました。



【ロールプレイをしている様子】

● 中学生の小学校訪問（人権劇の説明）と小学生の中学校訪問（観劇）



【中学生が小学生に説明している様子】

人権劇は、小6児童が中学校に来て観劇します。事前に、中学生の代表が各小学校を訪問し、制作過程の説明を行う際に、テーマについても知らせ、当日、内容がきちんと把握できるようにしています。言葉遣いを含め、他を思う言動について考える重要なきっかけになりました。この時期に合わせて、各小学校でも特別授業が展開されました。

〈成果〉

子どもたちが自分の言動について考えたり、言葉を発する前にそれが相手を傷つける言葉ではないかと考えたりすることが増えてきました。その価値が子どもの心の中に根付き、児童生徒が実践意欲を持ち続けられるよう、今後も幼小中が連携し合っこうした取組を継続していきます。町の「ことひらっこ宣言」で、保護者啓発を行っています。

高まり